

呉羽丘陵 2024年12月コースの見どころ紹介

●サザンカとツバキの違いは？

サザンカとツバキはどちらもツバキ科ツバキ属に属する植物で、学名はそれぞれ *Camellia sasanqua* と *Camellia japonica* といい、日本を原産とする樹木。サザンカは日本の固有種ですが、ツバキは台湾や朝鮮半島にも自生しています。サザンカは、花びらが一枚一枚バラバラに落ちるのに対し、ツバキは1つの花がそのまま丸ごと下に落ちます。『鳥媒花』といって、昆虫の代わりに、鳥が受粉を担います。



●カラタチバナ (群落多し)



サクラソウ科ヤブコウジ属の常緑小低木。果実は11月頃に赤色に熟し翌年の4月頃まで。よく似たマンリョウ(万両)、センリョウ(千両)、カラタチバナ(百両)、ヤブコウジ(十両)と言われます。

●ヤブコウジ (群落多し)



カラタチバナと並んで冬の森で目立つ赤い実。別名ジュウリョウ。根莖、または全草乾燥品は紫金牛(しきんぎゅう)と称する生薬。虫下し。

●フイチゴ (多数あり)



キイチゴの仲間。果実が晩秋から初冬に熟するためフイチゴと命名。自生するのは冬季でも積雪のないような低山や沿海の林床ですが、緑色の葉と赤い実のコントラストが美しく、庭園に使われたりします。日本以外では中国や朝鮮半島に分布します。

●ムラサキシキブ



シソ科の落葉低木。山地の林などにも普通に見られる。9~10月頃に熟す直径3ミリほどの紫色の実が秋の庭を彩り、ネーミングの良さも手伝って、人気の高い下草となっているが、実際に植栽されているのはコムラサキが多い。秋が深まると葉が黄色く色づき、ムラサキ色の実とのコントラストが際立つ。実は寒さが増すにつれて色合いを増し、野生のものはメジロ、ヒヨドリ、ウソなどの野鳥に採食される

●マユミとコマユミ

マユミ



コマユミ



マユミとコマユミはどちらもニシキギ科ニシキギ属の樹木。マユミには枝にヒレのような翼がありますが、コマユミには翼がありません。葉柄:マユミには葉柄がありますが、コマユミにはほとんどありません。葉の根本が丸いのがマユミ、尖角はコマユミ。マユミは古来より弓の材料として知られ、名前の由来。材は狂いが少なく、細工物に使われ印鑑や櫛の材料になっている。